

闘え!商大

小さな巨人!!

第14号	
4面	1面
空手道部	ボクシング部
2・3面	
ウエイトリフティング部	合気道部
ソフトテニス部	準硬式野球部
硬式野球部	

国体初 京大 全日本準V



王座決定戦 準V

技能賞



ボクシング部

今年度、大商大ボクシング部で最も波に乗っていたのは、京口 紘人(経済3年・伯太高)である。今年度の戦績は17戦14勝。長崎国体では4度目の挑戦で悲願の初優勝。全日本選手権でも準優勝に輝いた。そして、大学日本一を決める王座決定戦では、チームの先陣を切って勝利を挙げ、チームをけん引し、技能賞を獲得した。ライトフライ級の小さな巨人の躍進は、まだまだ続くに違いない。

昨年度、東京で行われた国民体育大会で3位に入賞した京口だが、この結果に満足できず、悔し涙を流していた。そして今年度の長崎国体では、決勝まで判定をものにし勝ち進むと、決勝では不戦勝で初タイトルを手に入れた。京口は「自分の運が良かったというよりも、相手選手の運が悪かっただけで、試合をしていても勝てたと思う。次の日からチャンピオンの自覚が持てたと誇らしげに語った。

階級	○日本大	vs	●大商大	7-4
LF	●横山 祐介	vs	○京口 紘人(3年)	判定0-3(27-30,25-30,26-30)
F1	○坪井 智也	vs	●長尾 朋龍(2年)	判定3-0(30-27,29-28,29-28)
F2	○河野 圭太	vs	○山本 樹喜也(1年)	判定3-0(30-27,29-28,29-28)
B1	○佐々木 康太	vs	○山口 号珠(1年)	判定3-0(30-27,30-26,30-27)
B2	●菅原 祥	vs	○片山 慈英士(2年)	判定0-2(27-29,27-29,28-28)
L1	○木本 盛宝	vs	○田中 洸太郎(2年)	判定2-1(28-29,28-29,28-29)
L2	○小林 将也	vs	●中谷 夏樹(2年)	判定3-0(30-27,30-27,30-27)
LW1	○丹澤 航	vs	○前田 紘希(4年)	判定2-1(30-27,28-29,30-27)
LW2	●澤江 将樹	vs	○山田 大樹(2年)	判定0-3(27-30,28-29,27-30)
W	●李 健太	vs	○福森 翔太(4年)	判定0-3(26-30,27-29,27-29)
M	○楯川 直輝	vs	○佐藤 翔大(2年)	判定3-0(29-28,30-27,30-27)

この坪井選手と再戦の可能性があったからだ。だが、坪井選手が階級を上げたためリベンジ戦は実現しなかった。しかし、王座決定戦で大差をつけて勝利した京口は、誰しもが認めるチームの起爆剤といえる存在になった。技能賞にも納得だ。

全日本ボクシング選手権大会では二つ目のタイトル獲得を目標に団体チャンピオンとして挑んだ。京口は2回戦、準決勝と、相手を寄せ付けないチャンピオンにふさわしい戦いぶりを見せた。決勝では日本大学の坪井選手と対戦し、判定で負けた。京口は手数やクリーンヒットの数では負けていなかったが、戦略的に相手が一枚上だったと冷静に分析した。というのも、全日本選手権から1カ月後の全日本大学ボクシング王座決定戦でこの坪井選手と再戦の可能性があったからだ。だが、坪井選手が階級を上げたためリベンジ戦は実現しなかった。しかし、王座決定戦で大差をつけて勝利した京口は、誰しもが認めるチームの起爆剤といえる存在になった。技能賞にも納得だ。



国体準V 山田

「第69回国民体育大会(長崎がんばらんば国体2014)ボクシング競技」

成年男子ライトフライ級	優勝	京口 紘人(経済3年・伯太高・大阪)
成年男子バンタム級	2回戦敗退	長尾 朋龍(経営2年・新田高・愛媛)
成年男子ライト級	ベスト8	田中 洸太郎(公営2年・寛道高・京都)
成年男子ライトウェルター級	1回戦敗退	前田 紘希(経営4年・神戸第一高・兵庫)
成年男子ウェルター級	準優勝	山田 大樹(公営2年・津山東高・岡山)
	ベスト8	福森 翔太(経営4年・松山聖陵高・愛媛)

「第84回全日本ボクシング選手権大会」

ライトフライ級	準優勝	京口 紘人(経済3年・伯太高)
バンタム級	1回戦敗退	山本 樹喜也(公営1年・星林高)
ライト級	2回戦敗退	田中 洸太郎(公営2年・寛道高)
ウェルター級	2回戦敗退	福森 翔太(経営4年・松山聖陵高)
	2回戦敗退	山田 大樹(公営2年・津山東高)

「第68回全日本大学ボクシング王座決定戦」 技能賞

技能賞	京口 紘人(経済3年・伯太高)
-----	-----------------



第68回全日本大学ボクシング王座決定戦
12月14日 広島市中区スポーツセンター

1戦目のライトフライ級には満を持して京口が登場した。「全日本の決勝を経験していたので緊張しなかった」と言う京口は、「1ラウンド開始のゴングが鳴ると同時に積極的に前に出て強烈なパンチを繰り出した。終始圧倒

16年ぶりの対決
関西学生ボクシングリーグ戦で全勝優勝を果たした大商大は、王座奪取を狙い広島に乗り込んだ。王座決定戦は、実に7年ぶり3度目の挑戦となった。対戦相手は、関東リーグで全勝優勝の日本大、16年ぶりの対決となる。王座決定戦では、ライトフライ級からミドル級までの計11試合が行われ、大商大は総戦力で挑んだ。



しかし、5戦目、バンタム級2人目の片山慈英士(公営2年・二階堂高)がその流れを止めた。1ラウンドからパンチを確実に当てて試合を優位に進め、一矢報

からベースを握った。(経営3年・興國高)

全カルフライト
9戦目ではライトウェルター級2人目の山田大樹(公営2年・津山東高)が勝利し、長崎国体準優勝の実力を意地を見せると、10戦目のウェルター級で主将の福森翔太(経営4年・松山聖陵高)が、有終の美を飾るべくリングに上がった。福森は高校時代に連勝記録を樹立している選手に對して、1ラウンドから激しく打ち合った。パッティングされ、右目の上から流血したが、2ラウンド

いた。しかし、強敵ぞろぞろの日本大に再び3連敗を喫し、残り3試合を残して優勝がなくなってしまう。だが、大商大は最後まで素晴らしい戦いを見せた。そして、大金星を挙げた。福森の勝利に奮い立った、最終戦、ミドル級の佐波翔大(公営2年・久居高)は、2年生ながら長崎国体準優勝の皆さんに食らいつき、負けこそしたが、いい試合で締めくくった。結果は4勝7敗で敗れたものの、次につながる試合となった。部員全員が「今までの中で一番チームが一つになっていった」と口をそろえた。福森は「一年後は王座を奪える。京口なら大丈夫」と夢を託した。次期主将の京口は「実力は互角だった。必ずこの場所に帰ってきて王座に就く。日本一になって、菅原博之監督(大商大OB)の指導が間違っていないというのを証明したい。エール強く話した。文/江見拓人

チームの集大成!

全日本 男子団体 準V



第59回全日本学生拳法選手権大会
11月23日 BODYMAKERコロシム

日本拳法部

最終幕開け

大商大日本拳法部の1年間の集大成となる全日本学生拳法選手権大会が、11月に開催された。全日本大会は、チームの中心として戦い続けた4年生の学生最後の試合となる。負ければそこで引退が決まる。大商大はトーナメント2回戦、3回戦と順調に勝ち進み、目指す優勝へと一歩一歩近づいた。

雪辱を果たす時

準々決勝の相手は、4月の西日本学生拳法選手権大会の決勝で僅差で敗れた関西学院大学だ。選手の順番をガラリと変えて挑み、先鋒を任された西野貴士(公営4年・今宮工科高)が力強く攻め勝利した。これでチームが勢いづくこと、副

10年ぶり決勝

勝っても負けても最終章。相手は全日本三連覇を狙う明治大学だ。ここまでの勢いで連覇を阻止したかったが、先鋒、次鋒、三峰と敗れてしまい後がなくなった。続く中堅は今大会絶好調の彦坂だ。相手に一本も取らせない強さを見せ、三将戦、西尾勇輝(経済4年・大商大堺高)



「第40回日本拳法龍峰杯優勝大会」 成年の部男子武段の部 3位 井上直也(公営2年・青翔高)
「第30回全日本学生拳法個人(男・女)選手権大会」 男子の部 ベスト16 西尾勇輝(経済4年・大商大堺高) ベスト16 江口昌吾(経済4年・大商大堺高)
「第59回全日本学生拳法選手権大会」 男子団体 準優勝 彦坂 優希(商1年・東大阪大柏原高)

勝っても負けても最終章。相手は全日本三連覇を狙う明治大学だ。ここまでの勢いで連覇を阻止したかったが、先鋒、次鋒、三峰と敗れてしまい後がなくなった。続く中堅は今大会絶好調の彦坂だ。相手に一本も取らせない強さを見せ、三将戦、西尾勇輝(経済4年・大商大堺高)

新体制へ

準優勝で幕を閉じた今大会を振り返り、2年間、主将を務めた西尾は

(経済4年・西城陽高) 文/根本あかり

全日本 男子団体組手 3位

昨年の無念晴らせず



第58回全日本大学空手道選手権大会
11月16日 日本武道館

空手道部

全関西大学空手道選手権大会が、1年ぶりに大商大総合体育館アリーナで行われた。大商大空手道部は、初戦の大阪工業大学戦に快勝するも、2回戦の大阪経済法科大学戦では大将戦までもつれ込んだ。大将を務めた曾木淳平(経営4年・東灘高)は、アリーナの大歓声を力に変えて落ち着いた試合運びで4-1で勝利した。続く準決勝の天理大学戦では、2勝1敗2分で勝ち上がった。迎えた決勝の相手は宿敵近畿大学だったが、先鋒、次鋒、中堅と連敗し、流れをつかめないまま完敗。2年連続で優勝を逃した。全関西大会から1カ月後の11月、全日本大学空手道選手権大会が東京で開催された。大会2週間前、主将の小山翔馬(公営4年・東洋大附属山久高)は技術面で自信を

付けていた。1、2回戦は緊張で思うように動けなかったが、負ける気がなかった(小山)というように、立教大学に完勝、高崎商科大学に3勝2敗で勝利し、3回戦へ駒を進めた。続く拓殖大学戦では3勝2敗1分とギリギリの戦いとなったが、飯作雄太郎(公営2年・保善高)は、拓殖大戦から自分の流れに持っていくことができ、調子が上がっていったと語った。準々決勝の同志社大学戦は2勝1敗3分で大商大の粘り強さを見せ、さらに駒を進めたが、準決勝では強敵・京都産業大学と当たり1勝3敗1分で敗れた。昨年度と同様の3位となり、成績を塗り替えることができなかった。全戦全勝でチームを支えた小山だが、大会前から勝つイメージは



第57回全関西大学空手道選手権大会
10月19日 大阪商業大学総合体育館

「第54回空手道系東会全国選手権大会」 一般男子無差別級組手の部 3位 市本 寛(公営1年・おかもや山陽高・岡山)
「WKFプレミアリーグ2014沖繩大会」 男子組手-84kg級 2回戦敗退 溝口 弘樹(商3年・東大阪大柏原高)
「第6回関西学生空手道オープン・トーナメント」 男子シニアクラス 3位 高井 魁人(経営3年・神戸第一高)
「第69回国民体育大会(長崎がんばらんば国体2014)空手道競技」 成年男子組手軽量級 5位 高井 魁人(経営3年・神戸第一高・兵庫) 1回戦敗退 小山 翔馬(公営4年・東洋大附属山久高・茨城) 成年男子組手重量級 準優勝 溝口 弘樹(商3年・東大阪大柏原高・大阪) 1回戦敗退 飯作 雄太郎(公営2年・保善高・東京)
「第57回全関西大学空手道選手権大会」 男子団体組手1部 準優勝 優秀選手賞 高井 魁人(経営3年・神戸第一高) 優秀選手賞 市本 寛(公営1年・おかもや山陽高)
「第58回全日本大学空手道選手権大会」 男子団体組手競技 3位 優秀選手賞 飯作 雄太郎(公営2年・保善高)
「1st INTERNATIONAL KUALA LUMPUR OPEN KARATE CHAMPIONSHIP」 男子団体組手 優勝 畑野 翔真(経済1年・東大阪大柏原高)他 男子シニア個人組手-60kg級 優勝 中山 大樹(公営2年・東大阪大柏原高) -84kg級 準優勝 畑野 翔真(経済1年・東大阪大柏原高)

溝口

国体初出場 準V



次こそ 頂点へ!!



第69回国民体育大会空手道競技
10月13日~15日 佐世保市体育文化館

10月、長崎で行われた国民体育大会で、大阪府代表の溝口弘樹(商3年・東大阪大柏原高)が成年男子組手重量級で初出場にして準優勝という素晴らしい成績を収めた。4回戦まで安定の強さを見せ勝ち進むと、準決勝では宮崎県代表の工藤選手(近畿大)と当たった。工藤選手に苦戦を強いられながら「過去に何度か負けてきた相手なので、負けられない」という気持ちで、残り1秒でポイントを取り、決勝進出を決めた。しかし、決勝戦は京都府代表の谷選手(京

我楽多

今回初めて記事を書くことになり、とても不安でしたが、先輩に助けてもらいながら順調に行うことができました。普段見ることのできないスポーツを見るのができたので、この経験を来年に生かしていきたいです。(和田)

撮影やインタビューを通じて、あらためてそれぞれのスポーツの良さを感じることができました。来年度以降は、自分の担当記事で少しでも多くの人がそのスポーツに興味を持ってもらえるような記事を書きたいと思っています。(大村)

さまざまなクラブの応援に行けて楽しかったです。取材したり、撮影したり、初めてのことが多かったのですが、いい経験になりました。次回担当記事のクラブの良さをもっと引き出せるように頑張りたいと思います。(井戸垣)

普段はクラブ生と関わることが少なく、取材のポイントメントを取ることも先輩にお願いし、大変でした。今回は自分からクラブ生にコンタクトを取っていきたくて、そして、署名記事を書いた喜びを後輩にも受け継いでいきたいです。(吉田)

SHODAI SPORTS 商大スポーツ

発行編集 大阪商業大学 学生生活課 課外活動支援室(スポーツセンター)

印刷 日本ビジネスアート株式会社

※文中人名後の()内は、所属学科学年・出身高校